

1 月 14 日 CVV 定例会議事要旨(案)

日時：2025 年 1 月 14 日(火) 午後 5 時 30 分から

場所：(一社) 近畿建設協会会議室

参加者（順不同・敬称略）：26 名（会員・会友）

古田・川谷・青木・祝・先本・下土居・鈴木巖・鈴木威・高田・武・田中・友廣・夏秋・石原・野坂・南荘・河野・串田・宇野・今岡・古川・坂東・栗田・齋木・荒武・黒山

オブザーバー参加 地盤工学会関西支部（小柳氏、菅氏）

<定例会資料>

- ① 11 月 15 日定例会議事要旨（案）（黒山）
- ② 土木学会選奨土木遺産関連資料（青木）
- ③ 定例会進行に関する提案（黒山）
- ④ 阪神・淡路大震災 30 周年見学会開催報告（祝）
- ⑤ シビルジャーニー in CVV（澁谷）
- ⑥ 「CVV 震災講演会」（鈴木巖）
- ⑦ 「阪神淡路大震災に関する講演会」（吉岡）
- ⑧ 「晴明丘小いきいき活動」 報告
- ⑨ 地盤工学会関西支部若手セミナー開催報告（地盤工学会関西支部）
- ⑩ 2024 年度土木施設調査中間報告書（栗田）
- ⑪ 木津川大橋（武）
- ⑫ 防災エキスパート関西定例会メモ（吉岡、夏秋）

<主な議事>

代表の新年のあいさつに引き続き黒山が資料確認した。その後の議事は以下のとおり。

1. 黒山がスライドにより自身が経験した地下街の概要を紹介した（約 30 分）。
2. 青木会員から、土木学会関西支部が本年度推薦した選奨土木遺産候補についての本部での選考結果について資料②に基づいて報告された。支部として感じている主な問題点ならびに本日検討したい内容は以下のとおり。

- ・ 支部から 11 件推薦申請したが認められたのは 4 件。他支部も同様に多く落選している。
- ・ 過去は推薦した施設のほとんどが認められていた。
- ・ 2016 年頃までは推薦件数が少なかったが最近は概ね 10 件程度申請している。
- ・ 落選の理由が技術面のみに偏るなど選考結果が若干乱暴と感じている。
- ・ 関西支部として何らかの意思を示したいと思うので経験豊かな CVV の意見を聞きたい。

その後の意見交換の内容は以下のとおり。

- ・ 技術賞ではなく土木遺産の選奨なので価値判断が技術面だけに限られているのは問題がある。本部の委員会の判断基準が不透明だと感じる。（古田）
- ・ 全体で何件審査したのか。選奨の意義からして現地の状況を見ないで判断していることは問題では。（川谷）
→申請件数は不明だが今年全国で認定されたのは 14 件のみ。（青木）
- ・ 関西支部からの推薦理由が資料にないので不明だが、支部から本部委員会に施設の価値等を十分説明されているのか。（栗田）

- 関西支部の推薦委員会で調査し、議論された結果を調書にしているはず。(青木)
- ・ 土木施設は個々の施設より時代背景を踏まえたプロジェクトの意義、プロジェクトの中での施設の位置づけが重要なので支部からの調書にそれらがうまく表現されていないのではないかと。また本部はそのような観点で審査しているのか疑問。(今岡)
 - ・ 支部の意向(評価)がこれまでは尊重されてきたが今年は違うよう。(青木)
 - ・ 支部から本部へのアクションは可能なのか。(川谷)
→決定を覆すことはできないが支部から何らかの申し入れをする予定。(青木)
 - ・ 今年の本部委員会での判断が技術面に偏りが見られるのは問題だと思うので本部上層部から委員会に指導してもらいたいと感じる。一方、関西支部からの推薦の際、量より質の観点で調査、検討、判断してもらいたい。また、推薦調書や選考結果は資料として保存し、施設の価値や委員会での評価が誰でも確認できるようにしないといけない。(南荘)
 - ・ 資料によると提案者と(評価)担当者が同じ場合があるので違和感がある。支部内の選考にも問題があるのでは。(夏秋)
 - ・ 支部内での選考や調査に CVV メンバーに手伝ってもらいたいとの意向もあるようだ。(青木)
3. 黒山が資料③に基づいて、定例会の進行について問題提起、提案した。また、川谷幹事長が補足説明した。その後の質疑は以下のとおり。
- ・ 講演会を実施したほうが中身の濃い話題提供ができる。ただ、CVV メンバーだけではなくほかの団体とタイアップ(共催)して聴衆を増やしたほうが良いと思う。定例会では自己紹介的な内容にとどめては。(古田)
 - ・ 地盤工学会や土木学会とのタイアップが考えられる。(川谷)
 - ・ インフラパートナーとなっていることから土木学会関西支部との共催がふさわしいのではないかと。(南荘)
 - ・ ブラ土木など土木学会関西支部の行事とコラボできないか。(川谷)
→ぶら土木より土木カフェのほうがふさわしいのでは。CVV 主催で開催すればよいのでは。(宇野)
 - ・ 経験談を聞いたのち、その話題を基に一時間くらいメンバーで意見交換したい。そうすれば、講演者が次に話題提供する際参考になるのではないかと。(今岡)
 - ・ 定例会の合間の時期にそういった講演会を別途開催するのもよいかもしれない。代表らと再度相談し、次回定例会までに実施方法等を提案する。(川谷)
 - ・ 聴衆について対象者を誰にするか(一般人、専門家等)といった観点での検討も必要。(古田)
4. 祝会員が資料④に基づいて報告した。(祝)
5. CVV メンバーが大学や高専 3 校に出向き今年 30 周年を迎えた阪神淡路大震災に関係して講演いただいた。次年度以降も他校も含め継続的に実施したい。その後、講演者(鈴木巖、鈴木威会員)が感想を述べた。(川谷)
6. 資料⑧に基づいて、今年度最後のいきいき活動を報告した。また、次年度も財団に依頼して継続予定。(鈴木巖)
7. 地盤工学会関西支部「若手セミナー」担当幹事から今年度の実施状況が報告された。今年初めて地盤にこだわらない内容としたが好評であった。次年度も継続して協力いただきたい。
8. 2024 年度土木施設調査の報告を整理中なので資料⑩、⑪について修正事項等があれば 1 月中に担当者まで連絡いただきたい。橋梁関係の意見は武会員に連絡のこと。(栗田)
9. NEXCO に吉岡会員から提案していただいた結果、NEXCO 主催の「防災エキスパート関西(職員向け講習会)」において、CVV メンバーが講演することとなった。(夏秋)

10. その他

- ・ 総会に向けて担当グループの再編や新規設置を検討したい。(川谷)
- ・ 見学会のテーマについて、土木施設調査グループ等で実施した調査結果を活かさないともったいないのでグループ間の連携を図りたい。また、学生を対象とした見学会については担当グループとも相談したい。(南荘)
- ・ 今岡会員からの提案にあったように例えば地盤工学会若手セミナーでの講演内容を事前に CVV メンバーが聞き、意見交換してはいかがか。(黒山)
- ・ 担当グループ内でホームページに掲載可能と判断したら、定例会前に掲載してもよいのではないか。(黒山)
→了承された。
- ・ 次回定例会は 3 月 18 日 (火) に開催する。また、総会は 5 月 27 日 (火) 16 時半から実施し、その後定例会を開催する。

文責：黒山